

農業技術情報

令和4年9月20日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所	015-572-3128
J A 幕別町	0155- 54-4118
J A 札内	56-2131
J A 帯広大正	64-4591
日甜幕別原料事務所	54-2756
幕別町農林課	54-6605

各作物の生育・作業の遅速（幕別町9月15日）（）内は平年値

作物名	遅速日数	生育および作業状況	生育期節
馬鈴しょ	—	収穫始 8/28(8/27) 収穫期 9/9 (9/10)	
大豆	早3	莖長 83.2 (74.3)cm 葉数 9.6 (9.8)枚 莢数 654.5 (579.8)個/m ²	
小豆	早3	莖長 69.1 (55.0)cm 葉数 12.1 (11.5)枚 莢数 381.0 (344.2)個/m ²	
菜豆（金時）	遅1	莖長 56.2(54.5)cm 葉数 4.1(4.1)枚 莢数 135.0(160.1)個/m ²	成熟期 9/6(9/5)
てんさい(移植)	±0	根周 40.4(38.9)cm	
てんさい(直播)	±0	根周 30.6(30.2)cm	
牧草		草丈 89.1(89.3)cm 収穫期 9/6(9/2)	
飼料用とうもろこし	早2	稈長 280.3(274.9)cm 収穫始 9/15(9/13)	黄熟期 9/14(9/16)
ながいも(マルチ)	早2	種子重 24.3(30.8)g 莖葉重 580.0 (589.1)g 調整長 51.4 (53.7)cm (調整長=いも長-首長) いも重 1155.3(1085.2)g いも径 71.1 (64.4)mm 乾物率 13.1 (10.6) %	
たまねぎ	早10		収穫期 9/7(9/17)

畑作

<秋まき小麦>

越冬前の十分な生育量を確保するため、適正な種床の準備、適期は種、適正は種量を心がけましょう。

は種前に額縁明きょや心土破碎など、排水対策を行いましょう。

(1)は種時期

越冬前の葉数は5葉前後が目標で、現在は種適期(麦の越冬前葉数4~6枚が確保できる時期:糠内アメダス平年で9/13~25)を迎えています。

は種遅れは莖数不足や春先の凍上害のリスクを招き、登熟の遅れや収穫時期の遅れ穂発生など、品質低下の要因ともなるため、適期は種に努めてください。

表1 小麦の遅まきのリスク (R4「北海道の小麦づくり」一部改変)

リスク
<ul style="list-style-type: none"> ・越冬前の生育が不十分となりやすく、寒害や凍上害(断根、根浮き)を受けやすくなる。 ・は種時期が遅くなるほど雪腐病の発病度が高まり、減収・品質低下の要因となる。 ・成熟期が遅れ、雨害(穂発芽等)にあう危険性が高まる。 ・遅れ穂が多発しやすくなり、登熟ムラや粒の充実不足等が起きやすい。 ・地温が低くなるため、なまぐさ黒穂病の感染リスクが高まる。
<p>十勝管内では未発生ですが、なまぐさ黒穂病の耕種的防除も併せて行いましょう！</p> <p>① 必ず消毒済みの採種ほ産種子を使用し、適期は種を目指しましょう</p> <p>② は種床は膨軟にしすぎず、適正は種深度(2~3cm)を守りましょう。</p> <p>深まきは出芽までの日数を要し、感染のリスクが高まります。</p>

(2)は種量

小麦の‘主茎葉数4~6枚が確保できる時期’で140~255株/m²を基本とし、は種時期の早晚により、は種粒数を増減します(表2)。また、出芽率が低いほ場では、適宜は種量を増量します。

やむをえず遅まきとなった場合も、255粒/m²(下表では10.8kg)を上限とします。

表2 地帯別は種時期・は種量の目安

(単位:kg/10a)

観測地点	~ 9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3 ~
明倫	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.6	6.2	6.7	7.4	8.0	8.8	9.7	10.1	10.1	10.1
相川	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	6.0	6.6	7.2	7.9	8.6	9.5	10.1	10.1	10.1	10.1
南勢	5.5	5.5	5.5	5.5	5.7	6.3	6.9	7.6	8.3	9.1	10.0	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1
糠内	5.5	5.5	5.5	6.0	6.5	7.2	7.9	8.7	9.6	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1
駒島	5.5	5.5	5.5	6.1	6.7	7.3	8.0	8.9	9.8	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1
帯広	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	6.1	6.7	7.3	8.0	8.9	9.8	10.8
日新	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	6.2	6.8	7.4	8.1	8.9	9.7	10.8	10.8	10.8	10.8

※ □内は「葉数5葉程度」、斜体は「6葉程度」、太字は「4葉程度」となるは種日を指す

※積算気温に基づくは種時期は各地点2012~2021の10カ年平均値に基づいて算出

※千粒重は本年幕別産35.6g、札内産38.2g、出芽率90%として計算

(3)雑草対策

イネ科雑草を抑制できるのはこの時期だけです。特に連作の場合はイネ科雑草の増加が懸念されます。また出芽後の除草剤散布は効果が劣る場合があるので、は種後出芽前に土壌処理を実施しましょう(表3)。

表3 秋まき小麦は種後除草剤例

薬剤名	処理方法	使用時期	10a 当 薬量(ml)	使用回数 (以内)
ガレス乳剤※	全面土壌散布 (雑草発生前)	は種後～出芽前	200	1回
		小麦出芽後～出芽揃	150～250	
	土壌兼雑草茎葉散布	麦の1～3葉期	100～150	
ガルシア フロアブル※	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	150～250	1回
	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	小麦出芽直前～小麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	100～200	
ゴーゴーサン 乳剤	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	は種後～小麦2葉期(雑草 発生前～イネ科雑草1葉期)	300～400	1回
ボクサー	全面土壌散布	は種後～小麦2葉期まで (雑草発生前～発生始期)	400～500	2回
エコパート フロアブル	雑草茎葉散布	秋期:小麦2～4葉期	50～75	2回

※イヌカミツレが多発するほ場では、使用基準の範囲内で高薬量で使用する。

※ジフルフェニカンを含む農薬(ガレス乳剤、ガルシアフロアブル)の総使用回数は1回までなので、いずれか1回の使用とする。

(4)連作となる場合の注意点

前作の収穫遅れなどやむをえず連作となる場合は、早めの決断、早めのほ場準備、可能な限り適期のは種、を行なうことにより越冬前の生育量を確保することが重要です。

また、前作の麦稈がほ場表面に露出している場合、雪腐病の感染源となるおそれがあります。耕起を行い、麦稈を地中にすき込むよう心がけ、適期に防除を実施し、越冬後は融雪促進に努めましょう。

ただし、条斑病・縞萎縮病など土壌病害が発生しているほ場の連作は避けましょう。

<てんさい>

(1)収穫時・堆積時の注意点

ア 収穫時の注意点

- ①収穫作業は輸送計画に合わせ、適期に収穫しましょう。
- ②タッピングは切り過ぎないように調整しましょう。
- ③根腐症状個体を可能な限り取り除きましょう。

イ 堆積時の注意点

収穫後は、必ずシートで被覆し、乾燥・凍結を防止しましょう。また、降雨流入による腐敗を防ぐため、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も行いましょう。

(2)次年度用育苗土の準備

病気の恐れのない健全な育苗土を準備し、pH 測定を実施し目標 pH 6.0～6.5 になるよう粉状炭カルにより酸度矯正をしましょう。

<馬鈴しょ>

(1) 収穫時の注意

- ・機上選別時、網コン等への投入時には、傷、打撲などを与えないよう注意しましょう。
- ・収穫時の土壌水分は腐敗の発生程度や土離れに大きく影響します。

収穫は晴れた日に行い、収穫後は直ちに風通しの良い日陰で風乾を行いましょう。また、事故のないように安全に十分留意し、作業を実施してください。

<豆 類>

登熟状況と天候を鑑み、適期収穫と乾燥調製に努めましょう。

(1) 小豆の収穫

収穫適期の目安は、「熟莢率」で判断し、過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう。

表4 小豆の収穫適期の目安 (H14・H16 中央農試 H9 十勝農試)

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫		熟莢率 80%、子実水分 25%程度
ダイレクト収穫	100% (子実水分 16~18%) 完熟期 (熟莢率 100%) から2週間以内	①汎用コンバイン(4条)~熟莢率 90%、 子実水分 25%程度 ②豆用コンバイン(2条)~熟莢率 80%、 子実水分 25%程度

(2) 大豆の収穫

ア 汚粒対策

わい化病株や雑草(特に紫色の実をつけるイヌホオズキ)は、事前に抜き取っておきましょう。また、土砂の混入も汚粒の原因となるので、倒伏がみられるほ場や培土の高いほ場では刈り高さに注意して収穫作業を進めましょう。

イ 収穫適期

刈り取り時期および時間帯も汚粒の発生に影響します。刈り取り時期は子実水分が20%以下(最適は16%以下)の時とし、茎表面に「ぬめり」がある時は収穫を中止しましょう。朝夕は機体内に塵が付着し汚粒の原因となりやすいので避けましょう。また、刈り遅れも子実の外観品質に影響します。特に今年は生育が進んでいるため、適期収穫を心がけましょう。

ウ グリホサート系除草剤の収穫前使用(落葉終期~収穫14日前まで)について

収穫前に雑草を枯らし、汚粒防止や機械作業性を向上させる目的で国の登録はありますが、使用時期が狭く農薬が豆に残留しやすいことから、品質低下ならびに農薬の適用外使用となるリスクもあります。

このため、ホクレンでは令和2年産以降、収穫前使用した場合、JA の大豆共計では取り扱わないこととしています。

グリホサート系除草剤の収穫前使用にあたっては、受け入れ業者と確認の上散布の判断をして下さい。

＜緑肥のすき込み＞

緑肥のすき込みが遅れると、分解が遅れたり次年度以降に雑草化する場合があります。緑肥が結実する前（出穂または開花後7～10日を目安）で温度がある時期（遅くとも10月下旬まで）にすき込みましょう。

特に「ひまわり」は、花蕾に菌核病が発生することがあり、後作に「ばれいしょ」・「豆類」・「野菜類（白菜、キャベツ、レタス等）」を作付する場合は、開花前にすき込んでください。

野菜

これまでの多雨により肥料の流亡が懸念されます。葉菜類やだいこん、にんじんで、これまでに液肥の散布や追肥を実施していない場合は、防除の際に液肥の葉面散布を検討してください。

<レタス>

菌核病は 15～16℃、べと病は8～15℃、灰色かび病は 15～20℃の多湿条件で発生が助長されます。害虫はヨトウガやナモグリバエをはじめ、ほ場での発生状況に応じアブラムシ類の防除を実施してください。

表1 レタス病害の防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数	菌核 病	灰色 かび病	べと 病
パレード20フロアブル	7	2,000～4,000	収穫前日	3回以内	○	○	
アフェットフロアブル	7	2,000	収穫前日	3回以内	○	○	
アミスター20フロアブル	11	2,000	収穫7日前	4回以内	○	○	○
スミレックス水和剤	2	1,000～2,000	収穫7日前	5回以内	○	○	
ダコニール1000	M5	1,000	収穫14日前	3回以内		○	○

表2 レタス害虫の防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用 濃度(倍)	使用時期	使用回数	ヨトウ	ナモグリ バエ	アブラ ムシ
アディオン乳剤	3A	2,000～3,000	収穫3日前	5回以内	○		○
アフーム乳剤	6	1,000～2,000	収穫3日前	3回以内		○	
コテツフロアブル	13	2,000	収穫前日	2回以内	○	○	
プレバソフロアブル	28	2,000	収穫前日	3回以内	○	○※1	
グレースシア乳剤	30	2,000～3,000	収穫3日前	2回以内	○	○	

※1 ハモグリバエ類での登録 1,000～2,000倍

<はくさい、キャベツ>

(1)害虫防除

ヨトウガの第2回成虫の発生が続いています。発生が確認された際は防除を実施してください。
※薬剤については、「令和4年度農作物病虫害防除基準」を参照。

(2)菌核病・べと病の防除

菌核病やべと病は20℃前後の比較的低温の多湿条件下で発生が助長されます。気温が下がってきているため、雨が予想される場合は発生に注意してください。

(3)はくさいの黒斑病、白斑病の防除

黒斑病、白斑病は肥料切れによって発生が助長されます。降雨による肥料流亡が心配される場合は防除の際に、液肥の散布を実施してください。

表3 キャベツ病害の防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用濃度(倍)	使用時期	使用 回数	菌核 病	べと 病
アミスター20フロアブル	11	2,000	収穫7日前	4回以内	○	
ファンタジスタ顆粒水和剤	11	2,000～3,000	収穫3日前	3回以内	○	
ダコニール1000	M5	1,000	収穫14日前	2回以内		○
ランマンフロアブル	21	2,000	収穫3日前	4回以内		○
レーバスフロアブル	40	2,000	収穫7日前	3回以内		○

表4 はくさい病害の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数	菌核病	べと病	黒斑病 白斑病
ロブラール水和剤	2	1,000	収穫 14日前	3回以内	○		○ (1,000~1,500)
アミスター20フロアブル ^{※1}	11	2,000	収穫7日前	4回以内		○	黒斑病(2,000) 白斑病 (2,000~3,000)
ストロビーフロアブル ^{※1}	11	3,000	収穫3日前	3回以内		○	○
ダコニール1000 ^{※2}	M5	1,000	収穫7日前	2回以内		○	○
プロポーズ顆粒水和剤 ^{※2}	40/M5	1,000	収穫7日前	2回以内		○	○
ランマンフロアブル	21	2,000	収穫3日前	4回以内		○	
レーバスフロアブル	40	2,000	収穫7日前	3回以内		○	
パレード20フロアブル	7	2,000~ 4,000	収穫前日	3回以内	○		○

※1 アミスター、ストロビーは、結球前の散布および高温多湿条件下での散布を避ける。

※2 プロポーズ、ダコニールの茎葉散布は、合わせて2回まで。

<かぼちゃ>

収穫後はキュアリングを徹底し、品質向上に努めてください。

(1) 収穫時の注意点

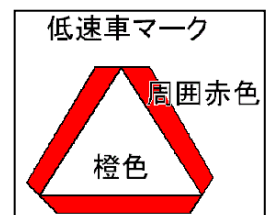
- ・外見上、品種特有の果皮色を呈し、花梗部にコルク状のひび割れが確認されてから収穫を開始してください。
- ・未熟果の混入防止のため、外観だけで判断せずに必ず試し割りを行い、果肉色および種子の稔実具合を確認して適熟果を収穫しましょう。
- ・収穫は、晴天日に朝露が乾いたことを確認してから行ってください。
- ・早期に茎葉が損傷したほ場では、日焼け果(日焼けにより果皮が白くなった障害果)の発生が懸念されます。収穫時期を迎えたら早めに収穫してください。また、日焼け果は腐敗しやすいので、分けて収穫してください。
- ・収穫時に打撲や傷が付かないように注意して作業を行ってください。

多忙な農繁期における農作業事故防止に努めましょう!

作業の遅れを取り戻そうとする“あせり”に注意

ばれいしょや豆類の収穫と小麦のは種作業が重なり、心身の疲労が心配されます。一層の事故防止に努めましょう。

- 1 トラクタ発進・PTO始動時は、クラクションなどを鳴らし周囲に合図する。
- 2 機械の調整・整備時(つまり物除去等)は必ずエンジンを止める。
- 3 機械の飛び降り・飛び乗りをしない。
- 4 作業機を上げ点検する時やつまり物を除去する時は、作業機の下降を防止するため「固定脚」や「かませ木」を用い下降防止に努めます。
- 5 夕方や夜間に公道を走行する時は、車幅灯を取り付ける、早めの合図、低速車マーク・反射シールをはるなど、トラクタの位置や作業機の大きさを知らせるようにします。



収穫残さのほ場焼却を避け、堆肥化しましょう